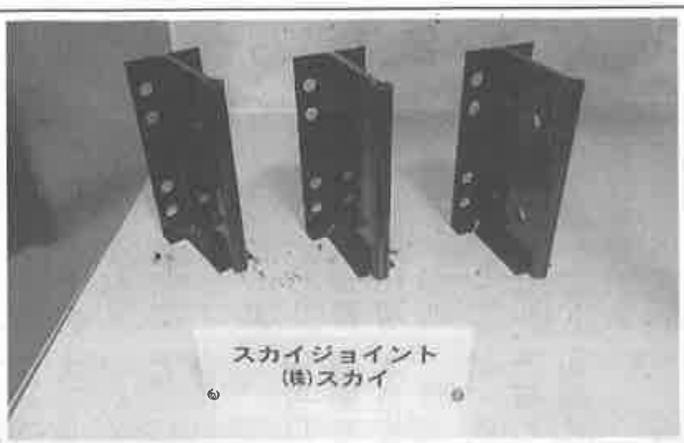
2016.3.3　日刊木材新聞６面に弊社の記事が掲載されました。



# 金物工法全体の対応力強化

## 独自の梁受金物を展開中




オリジナル金物のスカイジョイント

スカイ（静岡県磐田市、高橋幸嗣社長）は、梁受け部などの仕口欠損問題に対応する金物として、オリジナル梁受金物「スカイジョイント」を展開している。採用物件は2015年実績で住宅が月間91棟、非住宅物件が年間で372棟に達している。同社では今後も適材適所的な使用を提案していくほか、広範な金物工法の受注対応を進めていく。

スカイジョイントは、同社が独自開発したT字型の梁受金物で、丸くなっている羽根先端部分がパイロットピンの役割を果たして梁のずれを防ぎ、底面の「座」が組み込む材を受けることでボルト緊結等の施工を容易にする。在来工法での仕口の補完・補強に特化した製品で、同社では構造部材の仕口欠損への対策、特に通し柱の梁に対するホゾ差し部分やベランダ施工部分などへの導入を推奨している。対応寸法は210～450ミリ。意匠登録済みで、日本住宅・木材技術センターによる性能認定（Sマーク）を取得している。

同社では、金物工法については、大断面・CLT兼用加工機と連動CADソフトの導入により基本的に全メーカーの金物に対応できる体制を構築済み。全体のプレカット加工量は年間約13万坪（15年実績）だが、フル金物及び金物併用（ハイブリッド工法）の物件は80％以上を占めているという。

今後は、一般住宅ではコストのバランスが重要となっているため、在来工法と併せて金物関係のメニューも豊富にして提案を進める。一方、非住宅分野の木造物件の増加に伴う金物活用の動きに積極的に対応していく考えだ。